

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201645		
法人名	有限会社グループホームすだお		
事業所名	グループホームすだお		
所在地	長崎県佐世保市須田尾町18-1		
自己評価作成日	令和2年10月13日	評価結果市町村受理日	令和3年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和2年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者本位の安全で快適な居住空間を提供致します
特に入居者の方の楽しみである、食事内容の充実には力を入れています
医療体制は、嘱託医による毎週の往診をお願いしており、夜間などの緊急時への対応や、状態の変化にも 対応をしていますので 安心してご利用頂けます
又日常の健康管理に関しても、看護師の配置により充実を図っています
入居に際しての、権利金、保証金、敷金、などはありませんが退所時の原状回復やハウスクリーニングをお願い致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地に建つ事業所は、玄関先にプランターの花やベンチがあり、眼下に佐世保港を見渡す環境である。開設から17年経ち、当初からの理念である「利用者第一主義に徹する」ことを管理者、職員が意識し、入室時や支援時に必ず利用者に声掛けし、本人の尊厳を大切に支援している。また羞恥心にも配慮し、入浴時脱衣室ではタオルを掛け、希望があれば同性介助にも対応している。利用者の楽しみである食事は、専門の調理員が旬の食材や新米など使い、味や彩り、見た目も美しく利用者と職員の楽しみとなっている。また看護師の常勤と嘱託医との連携体制もあり、利用者、家族、職員の安心と信頼に繋がっている。利用者同士が食事中に支え合う様子も見え、手と手を取り合い、その人らしく生活できるよう、職員が笑顔で支援に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームすだお
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の実践に関しては充分には利用者の方の思いや要望を聞く事はできないが、できるかぎりの対応を図るように務めている。	開設時に、グループホームのあり方を考え、目標として作成した理念は「利用者第一主義に徹する」ことを柱に、その人らしい生活ができる明るいホーム作りを目指している。特に尊厳を大切に支援時に必ず声掛けを行うなど、理念の具現化がある。ただし、理念を振り返る機会を設けていない。	理念に込められた当初からの思いを、全職員で確認し合い、支援に繋げることを意識するために理念を振り返り、更に浸透することに期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年は地域の児童センターや小学校の生徒さんとの定期的な交流や、中学校の職場体験学習の受け入れを行っていたが今年は新型コロナウイルスの影響で交流は出来ていない。	自治会に加入し、回覧板や民生委員、町内住民等から情報を得ている。毎年、近隣の小学校や児童センターの児童や中学生の職場体験学習の他、ボランティア受入れなど、交流が盛んである。ただし、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため見合わせている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々には認知症のことなど伝え切れていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催しているが、最近は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面での会議となっている。出席者からの意見を聞き、より良いサービス提供ができるよう努めている。	年6回、規定の参加者で開催しているが、5月からは、新型コロナウイルス感染予防のため、書面での会議である。事業所の現状やヒヤリハット、事故報告など議事録で確認できる。参加委員からの意見を取り入れ、ヒヤリハットの記載事項を改良している。包括支援センターからの情報も多い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請や手続き上の相談がほとんどとなっている	認定更新などや相談ごとは窓口に出向き、担当者に相談することもある。普段はメール、ファックスで連絡を取り、アンケートにも応えている。担当課職員の訪問もあり、相談しながら協力関係を築くように取り組んでいる。また市主催の研修会を受講している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヵ月に1回開き、職員に身体拘束についてを理解させ、スピーチロックについては特に注意を払っている。	年2回身体拘束についての内部研修を行い、3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開き、廃止を進めるためのチェックポイントを使い、理解を深めている。特にとっさの時に出る言葉掛けには注意を払い、日中は玄関の施錠は無い。人感センサーの使用は家族の同意書がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待防止の研修に参加し、その内容を社内研修としてフィードバックしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者は成年後見制度についての講習を受講済みだが、実際に対応をしたことは無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に従い、十分に説明を行いご家族に安心して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会で来訪したり、電話があったときには意見聞くようにしている。また、利用者からは日常生活の中で聞き取るようにしている。入居者の状態などは2ヶ月に1回の状況報告書を送っている	家族は毎月の支払い時に訪問している。ただし、新型コロナ禍で、利用者との面会が困難であるため2ヶ月に1度、個々に近況報告を送っている。面会を切望する家族の思いを汲み取り、玄関ガラス越しに面会を支援した事例がある。遠方の家族には電話して近況を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本的に意見の言いやすい雰囲気作りに心掛けており、すぐに取り入れ実行するようにしている。	職員は毎月のカンファレンス会議で、意見やアイデアなどを表出している。職員の悩みは看護主任やベテラン職員が聞き取り対応する仕組みがある。事業所内には職員が寛ぐことができるよう量敷きの休憩室を設置している。書類作成の負担軽減や様式の変更など職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や、休日の取得などに配慮を行っている、又就業時間や職務内容によって処遇の改善を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得に関しては積極的に推進しており、研修会への参加に関しても多少の援助と、優先的に受講が出来るような配慮をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会議や交流会には積極的に参加していたが、今年は新型コロナウイルスの影響で会議や交流会の開催がなく、交流できていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人との面談を行い、聞き取りを行いケアプラン等への反映を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に入所前の説明の時に十分に話を伺い、情報の収集、家族の要望の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて、入所前に関わりのあった医療機関や施設や担当のケアマネなどの意見を聞き対応を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営理念に基づき、ホームの基本的な方針として理解し家庭的な環境づくりと関係を構築していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に合わせ、本人の孤立感の防止の為、家族との連携を図ったり、本人とのコミュニケーションを図る時間を持つように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の入所前の情報についてはあまり把握が出来なくなって来ている。本人の趣味や好きな事が何かなど、家族、友人知人の面会時などに情報の収集を行うように努めている。	新型コロナ禍で、面会が難しくなっているが、以前は、家族や親戚、グランドゴルフ仲間などの訪問があり、法事には家族と一緒に出掛けるなど馴染みの人や場との関係が途切れることのないよう支援している。現在はこれまでに把握した生活習慣を支援し、新聞購読などの事例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや会話などを通じて和やかに過されている時もあるが、状態の悪化などにより上手くコミュニケーションが取れなくなる事もありトラブルとならないように支援をしたりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や他の介護施設等へ移動後も面会に行ったり、家族への支援を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いや希望を引き出し、本人の気持ちに伝えられるようにしている。	利用者とは日頃の会話から意向や希望を聞き取っており、生活日誌に記録すると共に申し送り等で職員間で共有している。発語困難な場合は、選択制を用い、1対1で時間を掛けて把握し、本人の希望に沿った支援となるよう努めている。また、事業所では、本人・家族の意向を記す様式がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人・家族とのアセスメントや関係機関からの情報を得て生活歴を把握し、又その後の生活や家族からの情報をスタッフで共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌に記録し、毎朝のミーティングで一人一人の過ごし方や心身の状態の把握をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りでスタッフで話し合いをし、医療機関や家族と連携を取り、月一回のケアカンファレンスでモニタリングを行い現状に即した計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎の見直しと、毎月カンファレンス、モニタリングを行っている。本人と家族の訪問時や電話で要望等を聞き、計画に反映し確認印もある。ただし、個別の生活日誌に記録はあるものの、計画と日々の支援の連動が不十分である。	介護計画は、利用者がその人らしく暮らし続けるための必要な支援を盛り込んだ具体的なものが必要である。その計画と日々の支援の連動がわかり易い記録方法の工夫と、見直し時期の検討など、更なる取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に個別の記録を残し、それを元に毎朝のミーティングで対応を話し合い、実行と結果を確認し、申し送りで情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて出来るだけ柔軟に対応するように努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生の訪問や中学校の体験学習の受け入れ、営業推進会議での民生委員や地域包括センターとの情報交換を行っていたが、現在は新型コロナウイルスの影響でできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の意向に沿い今までのかかりつけ医かホームの協力医療機関にするかを決定している。	利用開始以前からのかかりつけ医の受診は家族対応である。場合によって職員が同行することもある。近くの歯科受診もある。受診結果は双方で情報共有している。協力医の定期的な往診と看護師の常勤で、急変時の連携体制もあり利用者・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気づきを看護師に報告し、看護師は主治医と連携を取り、職員に指示を伝えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医を通じ医療機関との連携を図っている。退院時は病院のMSWとの情報交換に務めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化への指針に基づきターミナルケアについての当施設の方針を説明し、十分に理解していただけるように務め、関係機関や家族と共に支援している。	重度化した場合に関わる指針と、看取り介護についての指針があり、利用開始時に説明し同意書を得ている。医療行為が伴う看取り支援は行わないと決めているが、今年度老衰による看取り支援があり、利用者の諸事情がある場合の終末期についての支援を検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医に指示を仰ぐようにしている。応急手当や初期対応は看護師と連携を取って行っている。訓練やマニュアル化はされていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の避難訓練を行っている。非常食の備蓄はあるが、非常持ち出し品の整備はできていない。	年2回夜間想定で、避難訓練を実施している。シーツやマットを使用し避難方法を試している。自動通報装置に町内住民、民生委員の登録もある。また、大雨災害等は、垂直移動を検討中である。ただし、非常食の備蓄はあるが非常持ち出し品の整備と避難後の確認方法の検討はこれからである。	いざという時に慌てず避難誘導ができるように、避難後の空室確認方法の検討及び非常持ち出し品等の整備を全職員で話し合い、準備することを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前は苗字で呼んだり、ドアの開閉時や訪室時などには必ず声掛けを行うなどをして対応する。職員は言葉遣いにも気をつけ、排泄時も声の大きさに配慮している。入浴時にも体の露出を考えタオルをかけたりする等をして対応している	利用者の居室に入室の際には必ず声掛けし同意を得ている。失敗時は、言葉を掛けながらさりげなく居室に誘導し、支援している。家族には個人情報に関する同意書と写真掲載についての同意書を得ている。職員は契約更新毎に守秘事務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	雑談を通して本人の意向を聞いたり、選んでもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはその様にしているが、自分の部屋で過しがちの人や、ベッド臥床を希望する人などには、すべて本人の希望通りには対応する事が良いとはいえない場合もありその場合は声掛けなどにより変化を持たせることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や頭髮の乱れには気を遣っている。定期的に理美容師に訪問してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付けは入居者の希望を聞きながら参加してもらっている。3食とも職員が毎日の献立を考えながら手作りしている。新米や旬の野菜などを使ったり工夫している	献立は家庭と同じように食材を見ながら立て、調理担当の職員が調理して提供している。利用者の状態に合わせミキサー食、キザミ食にも対応している。敬老会には刺身を付けたり、彩りよく、数種類の主菜、副菜は利用者に人気である。行事食では、母の日、ひな祭りにちらし寿司でお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月一回の体重測定を行い健康維持に気をつけている。一日の摂取量の記録もつけている。水分に関しては、食事以外に10時、15時のおやつ時に摂取してもらうようにしている。嚥下状態によりきざみ食・ミキサー食やトロミをつけて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、うがいや歯磨きをしてもらっている。出来ない方には職員がその人に応じた介助をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合った時間でトイレの声かけ誘導を行いトイレでの排泄が出来るように支援している。	事業所は、各居室にトイレを設置している。職員は、排泄チェック表を付けて定期的な声掛けで誘導している。排泄の自立支援の重要性を理解し、オムツ利用以外は、夜間帯もトイレへ誘導し支援している。パッドのサイズは朝の申し送りで検討しており、改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便については、健康管理の重要項目として管理表を作成し飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月、水、金と曜日は決めていて、時間帯も決めているが、その時間帯の中で一人一人のタイミングに合わせて入浴している	週3回の入浴を支援している。車椅子利用で立位が困難な場合はシャワーチェアを使用して支援している。入浴拒否時は声掛けを工夫したり、時間をずらすなど無理強いせず本人の思いに沿っている。好みのシャンプー・リンスを用い、希望があれば同性介助にて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせ、昼の時間もベッド臥床休息を行い、夜間も本人の希望時間に休んでもらうようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書をファイルにまとめ、分からないときにはすぐに確認出来るようにしている。一人一人に合わせた服薬の仕方も工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の楽しみの対応が多くなっており、入居者同士でのレクリエーションなど少なくなっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は少なくなっており、施設周りでの日光浴、庭やプランターの花を見たりが主となっている。新型コロナウイルスの影響で家族との外出もできていない。	以前は、本人の希望を聞き取り、桜やコスモスの花見に出掛けている。新型コロナ禍の中では、外出が難しいため、日常的に玄関先まで出たり、ベランダのプランターの水やりなど気分転換を図っている。また窓を開けて外気を取り込み、朝からテレビ体操するなど塞ぎこまないよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて支援をおこなっているが、現在は本人が金銭の管理を行っている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時には電話をかけて話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事に合わせ、ホーム内の飾り付けを実施している。ホームに咲いている花を飾ったり職員手作りの折り紙作品を飾っている。温度・湿度をチェックし、エアコン・加湿器使用している。	2階のリビングは見晴らしもよく、カーテンで陽射しを調節し、掃除や換気、温度湿度の管理も適切である。壁やフロアの季節の装飾品で、季節感を出している。朝からテレビ体操で身体をほぐし、新聞やチラシを見たりテレビ鑑賞など椅子やソファの好む場所で寛げる空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間ソファで過されている事が多い為、座る場所などで楽しく過ごせるよう声かけをしているが、利用者同士の会話などの中から不穏状態となる方もみられるため注意を払っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には元々本人が使用されていた家具や仏壇を活用し、家族の写真などを飾っている。	居室は、クローゼット、トイレ、洗面台の設置があり、トイレ使用時はアコーディオンカーテンでプライバシーを保持している。自宅から仏壇、椅子など使い慣れた家具の持ち込み、壁には写真やカレンダーなど貼っている。出窓には鉢植えを置き、職員が掃除を行い、清潔で寛げる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元が不安定な方が多くなり、歩行器を使用してもらったり、環境を整えている、お風呂場はさらに手摺の追加設置、浴槽内の滑り止めマット設置など安全を図っている		